

テーマ

風土記から紐解く「私たちのふるさと」

事業実施地区（中学校区名）	出雲市立 南中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	稗原コミュニティセンター 朝山コミュニティセンター 乙立コミュニティセンター

テーマの背景

出雲市の南部地域（南中学校区）は、美しく豊かな自然に恵まれ、先人から脈々と受け継がれてきた歴史や文化を大切にしてきた地域である。

普段何気なく生活している子どもたちや、保護者をはじめとする地域の大人が、今住んでいる自分たちの地域の地理的・歴史的な魅力や価値に改めて気づき、「ふるさと」のよさや思いを再認識する場とする。

実際の取組

④ あらゆる世代が一緒になり、ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場の設定

事業名：「ふるさと教育講演会」

<取組の概要>

- 講演テーマ（演題）  
「私たちのふるさと」～出雲國風土記から見る出雲市立南中学校区の自然や歴史～
- 開催日時・会場  
平成30年2月23日（金） 15:00～16:20 出雲市立南中学校 体育館
- 講演講師  
藤岡大拙氏（荒神谷博物館長、松江歴史館長他）
- 参加者  
南中学校 全校生徒 （90名）  
南中学校区住民・保護者・教職員 （102名）
- 講演内容  
この講演会は、「出雲國風土記」に記載されているこの地域（南中学校区）の内容を、講師監修のもとにコミュニティセンターが「特別に作成した資料」を使い、「神門郡や朝山郷の区域・地名伝承」「朝山郷周辺の神戸の里・余部の里」などの解説を中心に講演をしていただいた。
- 具体的な取組内容  
(1) 中学校との日程調整  
幅広い年齢層の参加をねらい、学校公開日の午後を設定



講演会案内チラシ

(2) チラシと資料の作成

講師から提供の風土記資料をもとに、地区住民の力を借りて写真や図・説明文等を集め、「講演会資料」を講師の監修のもとに編集

(3) 参加者確認と送迎計画の立案

移動手段のない方のために、それぞれの地区から送迎用のバスを準備

(4) 当日の講演会運営

(5) アンケートの集計と振り返り

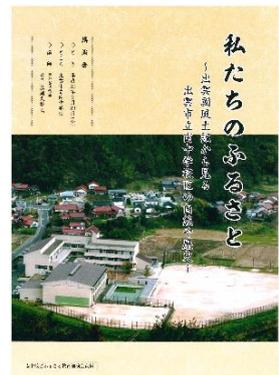
成果の確認や今回作成した資料の今後の活用方法等について検討

(6) 住民への周知

広報誌により、当日の様子や今回まとめた地域資料の発信



講演会の様子



講演会資料

<成果と課題>

今回の講演会は、「出雲國風土記」によるこの地域（南中校区）の記述を中心に取上げたものであったが、中学生にも解るように図や写真等を織り込んだ資料を作成した。また、多世代と一緒に話を聞いたことにより、講師の解説も丁寧で聴きやすいものになり、より深く理解することができた。

一般の参加者も「非常にわかりやすくてよかった」という感想が多数あった。改めて自分たちの住んでいる地域の「誇り」や「大切にしたいもの」をみんなで共有できたと思われる。

○中学生の感想～

今まで南中校区にそんなに歴史があることは知らなかったから驚いた。その地域に住んでいることを誇りに思わなければならないと思った。

○一般参加者（40代）の感想～

この地に嫁いできて、その歴史を聞くよい機会でした。普段暮らしている所の由来などを伺い、心が温かくなりました。

○一般参加者（60代）の感想～

南中の建設されている所は大変に神聖な場所であることに感動させられた。この地に生誕したことに誇りを持つと思う。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

今回の講演会は、参加者が10代から80代までの広範囲であった。なかでも中学生が半数であったので、中学生に向けた解りやすく聴きやすい講演内容であった。

また、視覚的に理解しやすい独自の資料を作成したので、一般の参加者も「わかりやすくてよかった」という感想が多かった。

今後の展望

出雲南中校区では、従来からそれぞれの地区（小学校区単位）で、学校と地域が連携した「ふるさと学習」をさかんに実施してきたが、今回のように少し広範囲な地域で「自然や歴史・文化」を再認識する機会も有意義であることが確認できた。

また、今回独自に作成した「地域資料」は、今後それぞれの地区での古代史等の研修や各種行事等にかなり役立つと思われるので、うまく活用していきたい。

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～  
公民館ふるさと教育推進事業 取組事例